



環境教育学会 関西支部通信

No. 17

関西 ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方で環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方のコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費(1年分)をいただきましたら、ワークショップの案内葉書と ECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振込先…郵便局「大阪 9-37886」^{日本}環境教育学会関西支部)

第28回 関西ワークショップのお知らせ

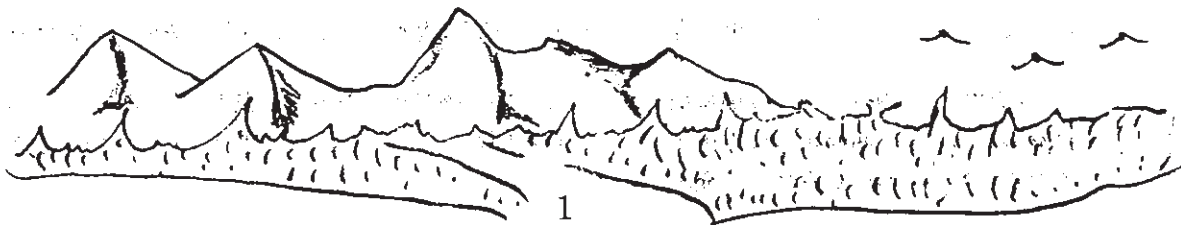
日時 9月25日(土) 午後2時30分～5時

話題提供者… 羽曳野市で都府府の公園について考え、公園実現に向けて活動中。農菜や里山での体験が、年々環境教育になり、いろいろな催しもされている。
草野裕子氏(南河内水と緑の会)

場 大阪教育大学(天王寺キャンパス)

(JR環状線寺田町駅下車西へ徒歩3分、または天王寺駅下車北東へ徒歩7分)

お誘い合わせの上、ぜひご参加下さい。様々な活動・学習をなさっている多くの方々との出会いがあなたを待っています。



日本環境教育学会第4回大会のあらまし

8月19・20日 筑波大学

今年の大会は、国際環境教育シンポジウムの開催（8月21・22日）に先立って、その前々日から筑波大学大学会館で開催された。約250名の参加者の中から、第1日目には73人の一般研究発表が5つの会場に分かれて行われた。また当日の昼休みには、4つの小集會がもたれた。第2日は午前中、總會と特別講演が開催され、平成4年度事業及び収支決算報告と平成5年度事業計画及び予算案を審議・承認した。なおこの總會で第5回大会を甲南大学で開催することが決定され、同大学の谷口文章さんが次期大会運営委員長として挨拶した。日本環境教育学会は本年で第4回目の大会を迎えたが、学際的な内容と多様な分野からの参加がみられるために、今年も学会発足当初からの課題を継承して、「環境教育とは何か」という観点から研究発表や討議が行われた。

一般研究発表

発表は5つの会場で行われたが、分科会ではなかったため会場ごとに発表内容をまとめることは難しいが、把握できた範囲の主な内容と関西支部関連の発表のみ紹介するので、一つひとつの発表内容については研究発表要旨集を参照されたい。

a会場：「環境問題・環境教育に関する児童・生徒及び教師の意識（一次集計の結果）」、「都市住宅団地における子どもの環境認識に関する調査研究—芦屋浜シーサイドタウンにおける事例研究（2） 戸外空間における環境認識」等、学校・地域を中心にした環境教育に関する調査研究と実践報告が行われた。関西支部からは福島古さんが「環境（エコ）マインド育成への分析のアプローチ」について発表した。

b会場：「大学共通科目『環境と人間』工科単科私大での実践報告」「マルチメディアによる環境教育へのアプローチ。環境保全啓発CAIの開発」等、大学における環境教育の課題を含めて、教材・メディアに関連した発表がみられた。関西支部からは横村久子さんが「クジラ（捕鯨）を題材とした環境教育の関心領域の拡大について」と題して発表した。

c会場：「人体環境汚染ウイルスについての実践的な研究。血液、免疫、抗原抗体、遺伝子との関係」「地域における環境教育拠点整備と導入機能。現状と課題」等、環境教育の周辺領域における調査研究が中心となった。関西支部からは藤岡達也さんが「環境教育としての自然景観と自然史を重視した科学教育。地学教育の視点からとらえた国立・国定公園」、赤尾整志さんが「環境教育と福祉教育。生きものと共生する学習」について発表した。

d会場：「自然教育の方向性。自然教育プログラムの分析」「ファイブセンスゲーム（五感ゲーム）とアニマルゲームの開発」等、自然教育に関わる方法や実践報告が行われた。関西支部より植田善太郎さんが「小学校における環境教育の教材化『土の学習』（3）」を、牛尾巧さんが「大切にしよう！私たちの川 猪名川—身近な自然『猪名川』流域の教材化を図る」を発表した。

e会場：「測量による『環境地図』づくり」等、機器類を利用した環境教育の方法についての発表があった。関西からは上田学さんが「環境問題のソフトウェア製作を通じた情報基礎教育の環境教育における意味」を発表した。

課題研究発表

第2日目の午後、各課題ごとに6会場に別れて行われた。発表の後で各会場からの発表をもとにしてシンポジウムを開く予定であったが、各会場のレポーターの報告だけで時間切れとなった。

A会場：鈴木善次さん・原田智代さんの「文明教育という視点からの環境教育」や山田卓三さん・小林辰至さんの「自然をどうとらえるか—環境教育への模索」、佐藤孝則さんの「宗教観に基づく環境教育」等、環境教育の重要なカテゴリーに関する議論を中心に展開された。

※ この項目は参考になる点が多いので、特に同会場のレポーターをつとめた鈴木善次さんの報告を別項に掲載します。

B会場：主として大学教育の現状と問題点について発表が行われた。環境教育の専門教育と一般教育科目における位置付けの問題や、環境教育の総合性と大学の専門性など、解決の急がれる諸問題が指摘された。関西からは蒔田明史さん、西谷好一さん、林 智さんらが発表した。

C会場：学校教育における環境教育とくに子供の環境観の調査研究と、中学校技術科における取り扱いについての実践報告があった。また学校教育においても、子供の自然に対する感性と生態学的理解の必要性が強調された。関西からは上田学さんが発表した。

D会場：子供たちの地域社会との関わりによる環境学習や、住民による環境学習の手法について発表された。関西の宮田幸治さんが「環境教育とまちづくりイベントの累積的展開と環境ネットワークの形成」について発表した。

E会場：環境と環境教育についての概念規定や方法論、環境問題に対する姿勢など、哲学的考察から実践論まで巾の広い議論が行われた。関西の鈴木紀雄さんが「環境教育の方法論について」を発表した。

F会場：環境学習の方法や場の問題について、多面的な考察が行われた。関西からは勝山元照さん・中道貞子さん・藤川宜雄さん・松田正昭さんらによる「総合学習としての環境教育」が発表された。

課題研究「環境教育とは何か」A会場から

鈴木 善次

この会場では7つの話題提供があり、いずれも環境教育の基本理念にかかわる内容のものであった。「環境教育とは何か」「環境教育のあるべき姿」を論じるのには今日の環境問題の本質なり背景なりを明確にしておく必要がある。その点について鈴木善次・原田智代（大阪教育大）は文明問題であること、佐藤孝則（天理大）は西洋の宗教のもつ自然観に由来すること、西城戸司・篠崎恵昭（埼玉大）も現代文明によって生み出された人間精神の内面汚染が深くかかわっていることなどを前提に、それをふまえた上で環境教育のありかたを検討すべきだと論じた。山田卓三（兵庫教育大）・小林辰至（宮崎大）はアオダイショウを会場に持ち込みながら人間と自然とのよりよい関係とはなにか、そこから環境教育をとらえようと提案。奥山清子（ノートルダム清心女子大）はモンテッソーリのコスミック教育の理念、人間も宇宙の一部であるという考えに基づいた環境教育を提唱。さらに石川伸明（愛知県立守山高）は生涯学習時代における環境教育の役割を、近藤正樹（白梅学園短大）は環境教育には4つのタイプ（of, for, by, with）があることを論じた。全体として「課題」に対しての十分な掘り下げはできなかったが、いろいろなアプローチで展開されている環境教育活動を大きな視野でとらえ直すきっかけになった会合であった。

小集会

今年ではテーマ別に4会場で行われたが、各会場とも盛況であった。

◇ 野外活動と環境教育 集会： 柴田敏隆さんが「キャンプと自然保護」をテーマに実例を紹介しながらプレゼンテーションを行われた。その後の討論も含め、具体的な活動例を提示し、その活動を行うことで、結果として自然に対してローインパクトであったり、自然が学べるような方法が必要だということがオートキャンプを例に話題になった。

関西支部から参加した山本幹彦さんは「キャンプは目的ではなく手段であって、それが逆になってしまうとグラグラするという意見を聞き、環境教育アクティビティーを使うときの“Tool to understanding”ということを連想し、印象に残った」と言っている。

◇ 大学における環境教育の実践と課題 集会：“大学教育の現状と受講生増加による授業方法の工夫の必要性など当面の問題点と、教育目標を学問体系の中でいかに位置付けるべきかが議論された。この集会では、関西支部の谷口文章さん（甲南大学）がコメンテーターの一人として「人文系専門教育での環境教育」について発表した。

◇ 各学校教育現場 集会： 幼・小・中・高各学校の教員が集まり、領域「環境」（幼稚園）、技術・家庭科（中学校）など6人が発表した。この集会のまとめ役をした関西支部の植田善入さんは、学校ネットワーク発足に向けて学校教育における環境教育が随分まとまってきていることを感じたと言っている。

◇ 以上の他に、「幼児期の環境教育」談話会とネイチャートレイル体験集会も催された。

特別講演「環境教育とは何か」

【概要】環境教育は学際的で多くの内容を包含するので、それらを総まとめしたうえ4項目ずつのエッセンスにして話したいと思う。

教育の目的

1) どのような分野にもアクセスがなければ入っていけない。教育の目的は、そのアクセスを拡大することである。この場合、どのようなアクセスを開くかが重要である。

2) 環境の目標は社会的に公正であるということである。教育の目的は人間の願望、能力に対して公平に門戸を解放することである。

3) 生活の質を向上させることは、定義するまでもなく重要なことである。

4) 国、地域、個人にかかわらず、民主制のレベルを高めることによって、意志決定の権力による独裁を押さえることができる。

環境に関する4つの学習方法

1) 環境を通して(THROUGH):環境のいろいろな「例」をひいて教育することである。

2) 環境において(IN):教室の中ではなく、野外のように環境として機能している場所で行う。

3) 環境に関する(ABOUT):人間の環境に関わる、たとえば土や水、動植物や人自身について。

4) 環境のための(FOR):環境を保護し改善する態度や、環境に対する姿勢を変化させる。

環境教育の目的

1) 環境のよりよき理解

2) 環境に対する価値観

3) 環境に関する技術

4) 環境における行動様式

この中でも、行動様式 (BEHAVIORS)が最重要である。またそのためには、工業国では環境浄化や省エネルギー、リサイクルなどの技術(SKILLS)を伴うということが、不可欠である。

環境教育の重要な概念

環境に関する情報がいくら多くあっても、それを総合する概念がなければならない。概念を変化させることによって、態度や行動を変化させることが可能となる。

1) 宇宙船地球号という有限性の概念である。この概念は世界のあらゆる場所のそれぞれについても言うことができる。さらに人口の増加によって、この宇宙船はだんだん狭くなっている。

2) 1つの村落であろうと途上国・先進国であろうと、世界は相互依存しあってこそ成り立っている。このことはよく忘れられるが、人間は1人では決して生きて行くことができない。

3) 環境には再生力(RENEWABILITY)という自然の力が備わっている。しかしそれには必ず限界がある。

4) 環境には生きものをどれだけ扶養することができるかという受容力(CAPACITY)がある。

このことを考えて、環境や資源を公平に分ち合うためには、途上国と先進国がそれぞれの最も適切なライフスタイルを模索しなければならない。

環境教育における4つの新しい挑戦

1) 環境(自然)と開発(人間)が合体できること。

2) 持続可能な開発を実現するための援助を行うこと。開発とは途上国・先進国にかかわらず、人類の発展である。したがって途上国をいかに援助するかが最重要であり、経済や工業・技術だけの発展を意味するものではない。

3) 生活の質の回復・維持・向上をはかるために、新しい理論や価値観や技術に基づいた権限を、個人・地域・国に与えることが必要である。

4) 環境を認識することができるということは、読み・書き・数えるなど識字力のなかでも最も重要な能力であることを認識する。

◇講演者: Michael Atchia 氏について

1986年よりUNEP(国連環境計画)の環境教育担当のチーフをつとめる。現在、世界の環境教育 IEEP(国連環境計画プログラム)の中核的な推進者となっている。

(文責 赤尾)

日本環境教育学会関西支部 第2回研究大会のお知らせと一般報告の募集

日時：12月11日（土）10：00～17：00

会場：大阪教育大学柏原キャンパス

・一般報告発表の申し込み方法

発表希望者は発表者氏名（所属）・テーマ・発表内容（100字以内）をハガキに書き、9月末までに下記宛に申し込みください。

・発表要旨（B5版1枚分）の締め切りは10月末日。（原稿の書き方は申し込み者にお伝えします）

申し込み先：〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学環境科学教育研究室 鈴木善次研究室 気付

日本環境教育学会関西支部事務局 第2回研究大会実行委員会

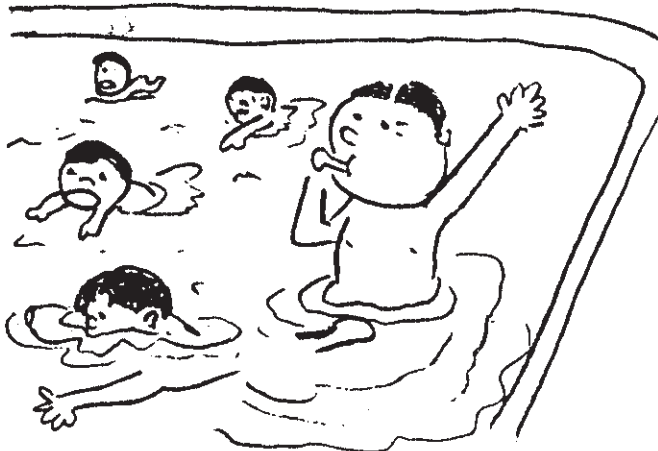
Tel. 0729-76-3211（内線3127）

Fax. 0729-76-3269

子供の俳句から

子供達が普段の何気ない生活の中で感じているものを、言葉にしてくれました。

四年生です



すいかには種が入って種とばし（Y・S）

楽しみにしていたプール寒かった（K・K）

真っ赤なトマトもうないから食べたのかな（S・M）

ネット・ワーク

環境教育トレーナー養成セミナー

プロジェクト・ラーニング・ツリー (PLT) 入門セミナー

アメリカやオーストラリアなどで広く採用されている環境教育プログラムである PLT (Project Learning Tree: 「木」を中心とした体験学習のアプローチ) の方法を体験的に学習するためのワークショップです。
今回は入門編として、PLTの全体的イメージをつかんでいただくための1日コースです。

主催

(財) 京都ユース・ホステル協会

後援

京都市教育委員会 / 京都府教育委員会 / 京都市
日本環境教育学会 / 国際理解教育・資料情報センター (予定・申請中)

日程

1993年9月19日(日) 午前9時30分～午後4時30分

会場

京都市宇多野ユースホステル (京都市右京区太秦中山町29)

講師

山本 幹彦 (京都ユースホステル協会環境教育研究会) 他

対象

環境教育に関心をもつ教員、社会教育関係者、学生などの方

定員

40人

参加費

4,500円 (昼食・保険代などを含みます。)

※テキスト代は含まれていません

申込・問い合わせ

電話もしくはFAX

(財) 京都ユース・ホステル

京都市右京区太秦中山町29

TEL 075-462-9185, FAX 075-462-2289

協会

奈良環境教育研究会のご案内

9月24日(金) 午後6:00-9:00 話題提供 奈良環境教育研究会

(本庄眞、永岡義博、川本方也)

「ボルネオの自然と民族調査報告」

10月29日(金) 午後6:00-9:00 話題提供 竹山美代子

(カウンセラー) 「連句は心の呼吸法」

11月20日(土) 午後2:30-5:00 ミニレポート大会 (レポート募集中

一人30分程度)

ナチュラリスト入門講座

- 講座期間 9月10日～2月18日の間で
室内講義=5回 野外講座=5回 計10講座
- 講座の特徴
 - ① 当講座は、身近な自然である都市近郊の「里山」をフィールドとして、野生動物の糞や足跡、食べ跡などの痕跡から、その動物の生態や暮らしぶりを学びます。
 - ② 当講座では、野生動物の観察を通して、自然のしくみや自然への接し方、動物調査の方法などについても学びます。
 - ③ 当講座は、室内講義と野外でのフィールドワークをセットにして、すぐに役立つ実戦的な内容の講座となっています。

<募集要項>

1. 対象：高校生以上 男女、経験の有無は問いません。
2. 定員：50名（受講手続き先着順）
3. 受講料：一般 6000円 協会会員 4000円
4. 申し込み：住所、氏名、年齢、電話番号をハガキで協会事務局まで。
5. 締め切り：8月31日（火）
6. 申し込み受付後の返金はお容赦ください。
（受講料は9月10日・リエンションの教室にて）



環境ワークショップの話題提供者（報告をお願いできる方）を募集しております。また、どのようなテーマでのワークショップ開催が望ましいか、あるいは講演以外にどのような形式のワークショップ開催が望ましいかなど、関西ワークショップに対するご希望なども、関西支部事務局までお寄せ下さい。（連絡先はこの頁に掲載）

- ★ 関西ECOMAILへの投稿を募集しています。
- ★ また、ネットワーク欄への情報提供もよろしくお願い致します。

関西ECOMAIL 第17号 1993年 9月 3日発行

通信費 一年 1000円

編集 日本環境教育学会関西支部世話人会

発行 日本環境教育学会関西支部

事務局 大阪教育大学環境科学教育 鈴木研究室気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

電話 0729-76-3211 (内線3127)

次回 第18号 1993年11月1日発行予定

原稿締め切り 93.年/0月/0日